

銀髪赤目TS美少女 幼なじみ—〇〇する話



原作：バックパス

作画：マクスウェル



霜澤雪夜(♀)



知咲 一真

子供の頃は：

こんな関係になるだなんて

予想していなかった。

互いに――



俺の名前は
霜澤雪夜
しもざわ せつや

銀髪赤目・ハーフの
男子高校生だったんだが

つい三ヶ月ほど前、
先天性の性転換症で性転換してしまった

お陰で現在、
銀髪赤目の美少女様ですよはいはい

Trans sexual



そんな俺には、
知咲一真という
幼稚園の頃からの親友がいる

ザンバラ髪の(酷いものいいだが)
可もなく不可もなくな
フツメンなんだけどさ



今まで通り家にも
遊びに来て一緒に遊んでくれた
最高の親友だ



いきなり女になって
困ってる俺にも
親身になって面倒を
見てくれたし



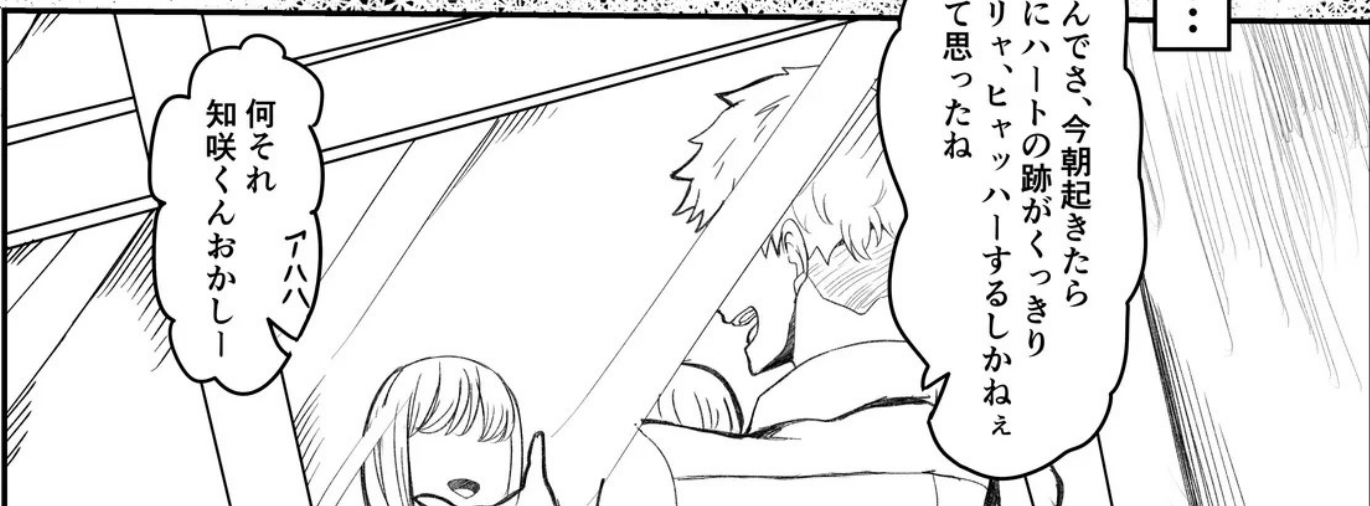
何とも言えない
モヤモヤした感情を
抱くようになっていた



そんな親友に対して
俺はいつからか



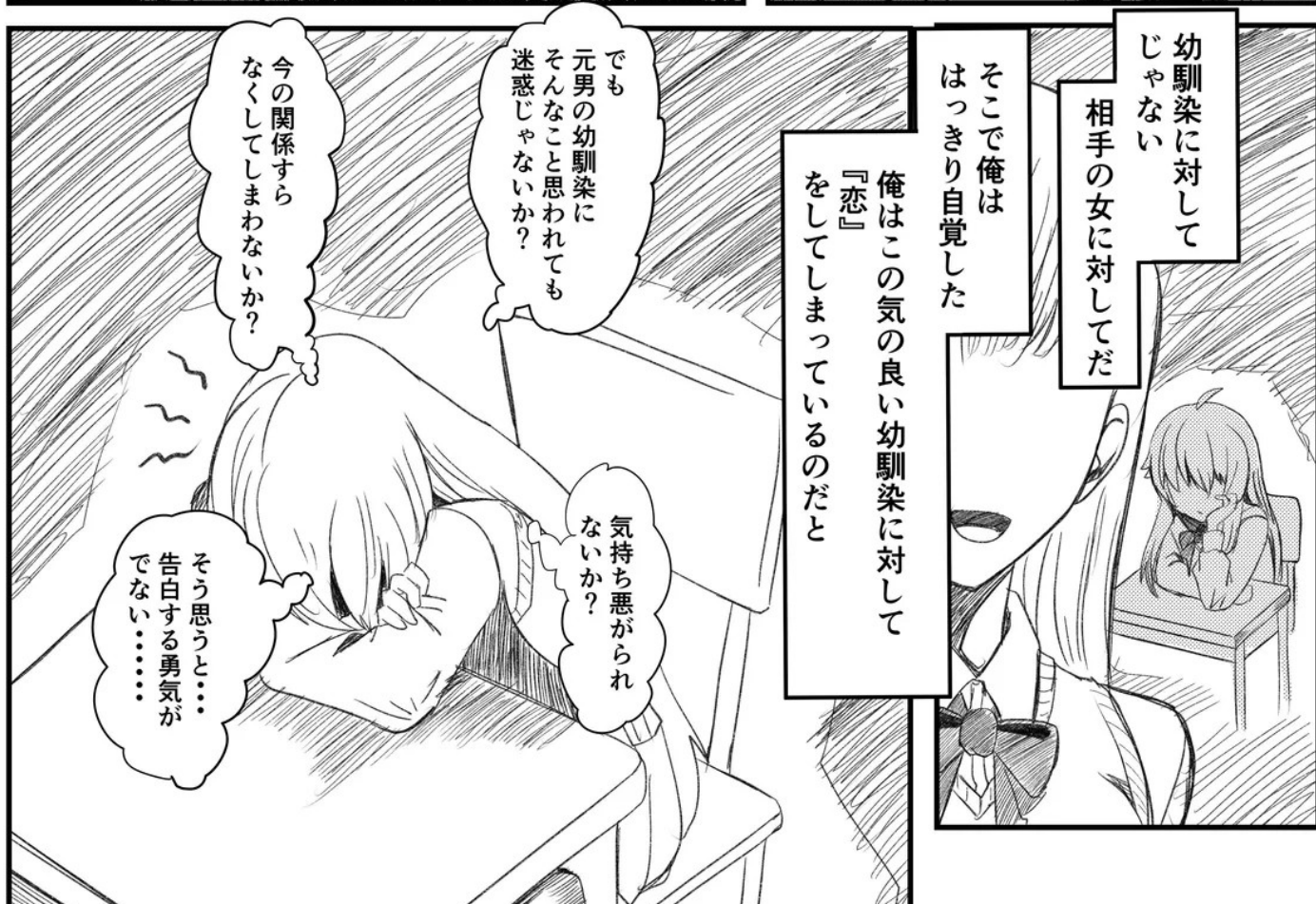
そして…

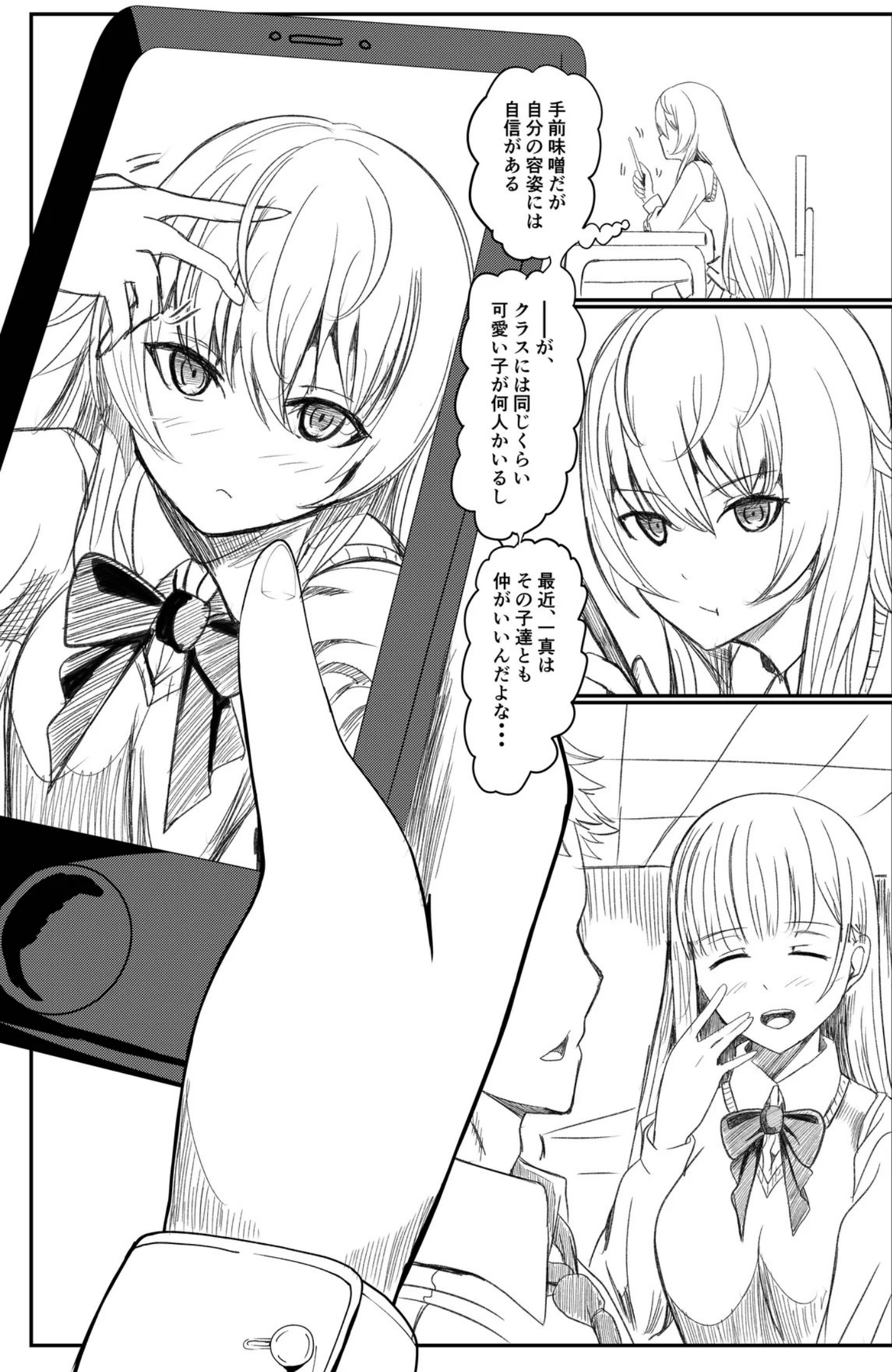


そんでき、今朝起きたら
顔にハートの跡がくっきり
コリヤ、ヒヤッハーするしかねえ
って思ったね

何それ
知咲くんおかしー

アハハ



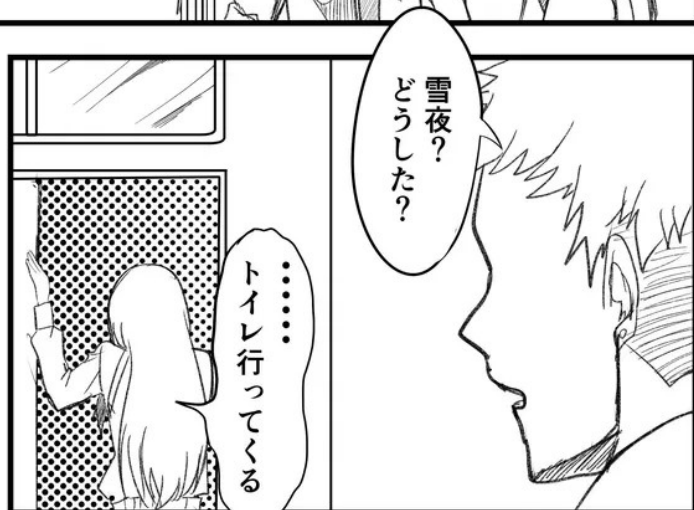
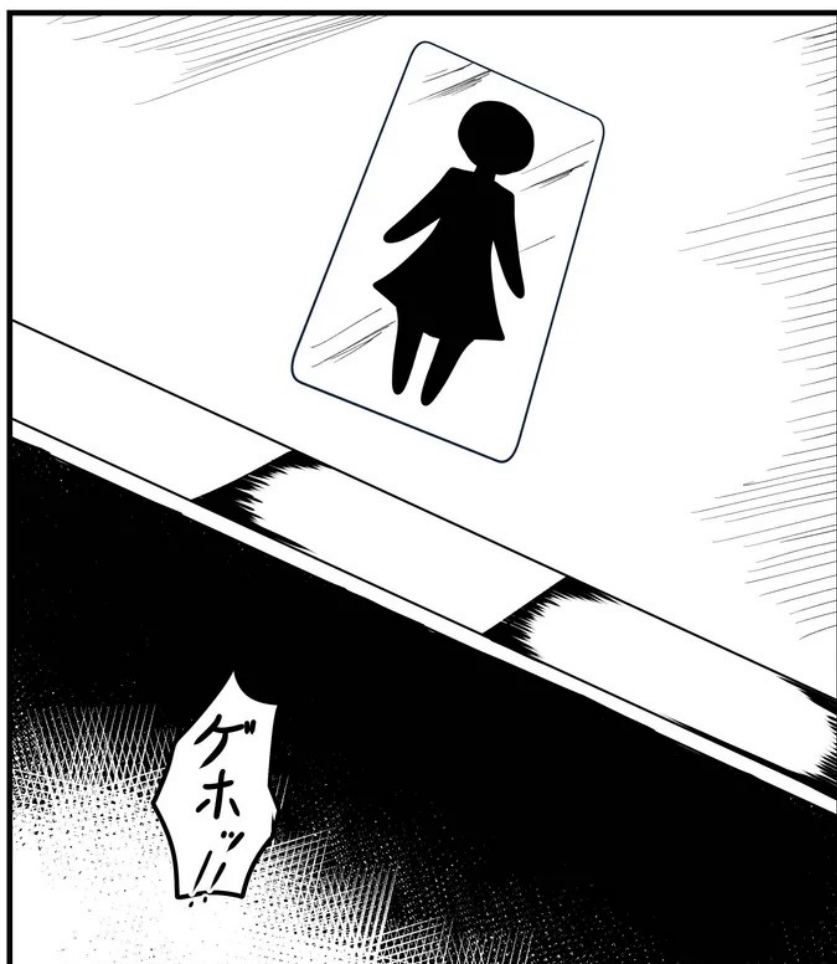
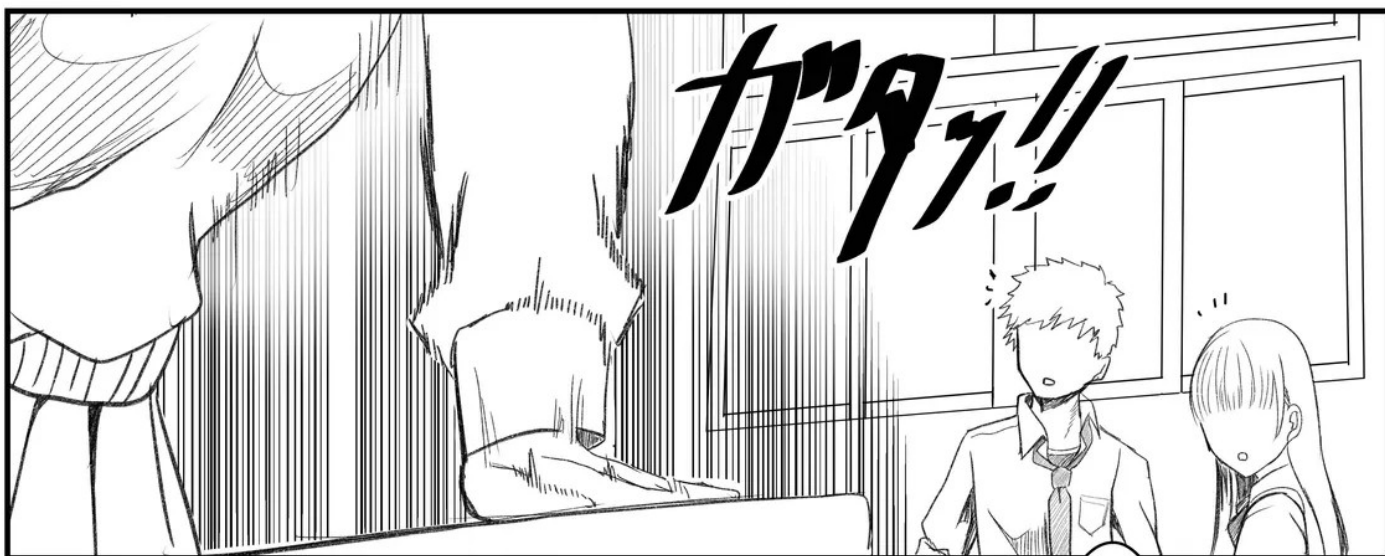


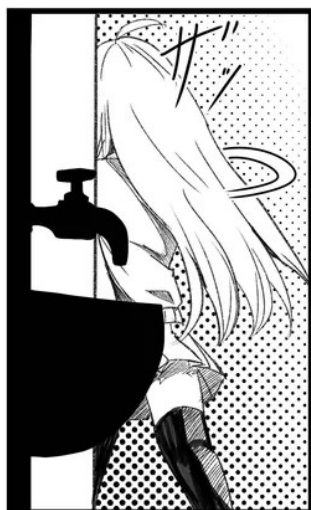
手前味噌だが
自分の容姿には
自信がある

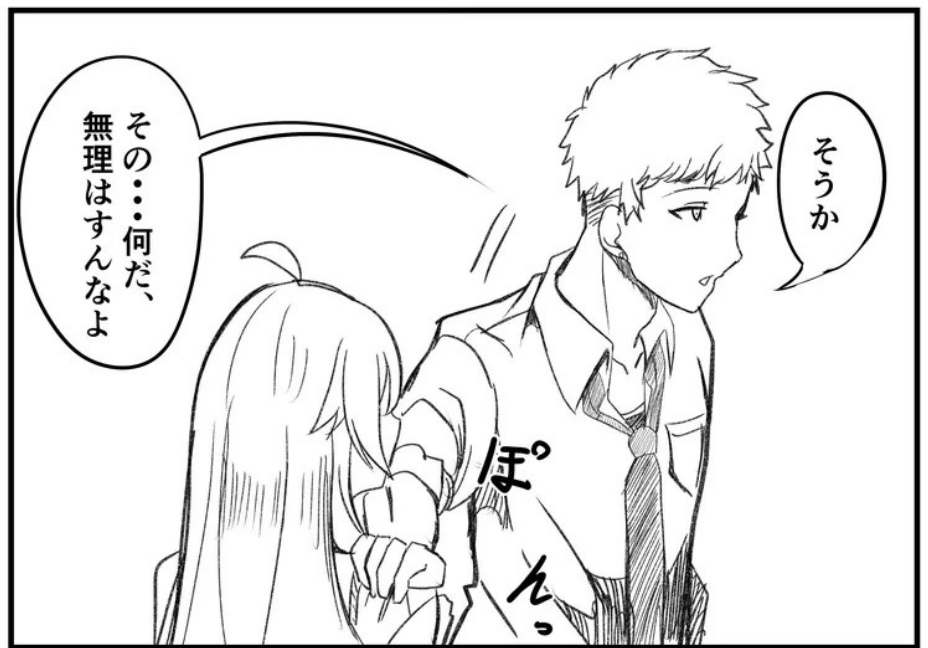
—が、
クラスには同じくらい
可愛い子が何人かいるし

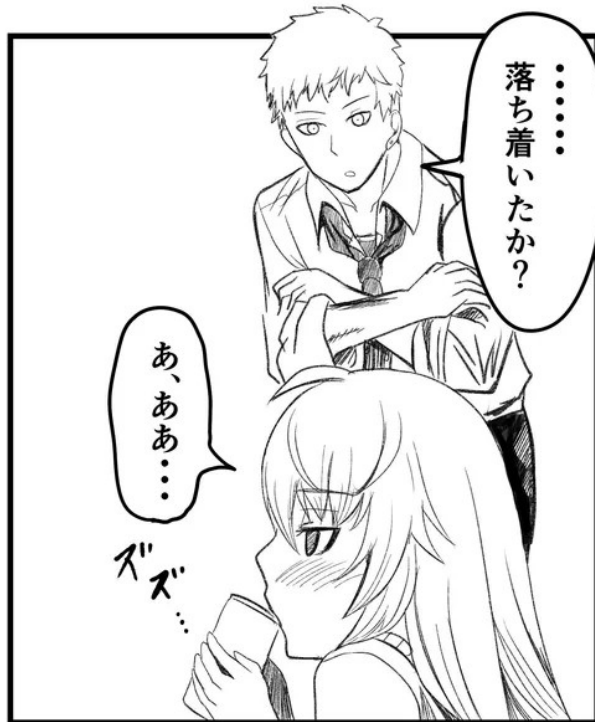
最近、一真は
その子達とも
仲がいいんだよな…

自意識過剰なのかな...











一真、

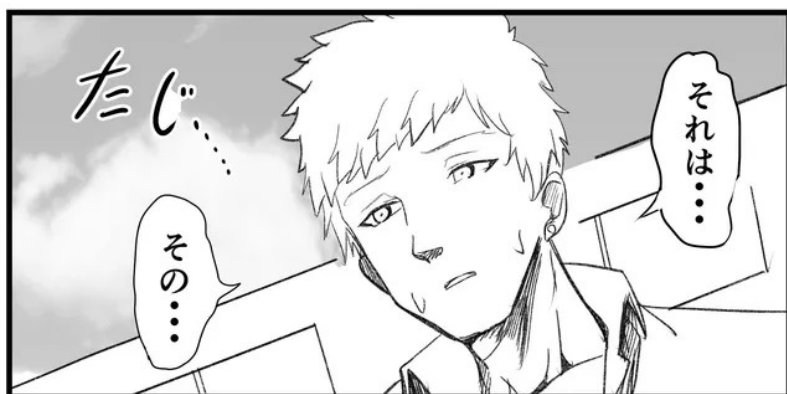
俺、

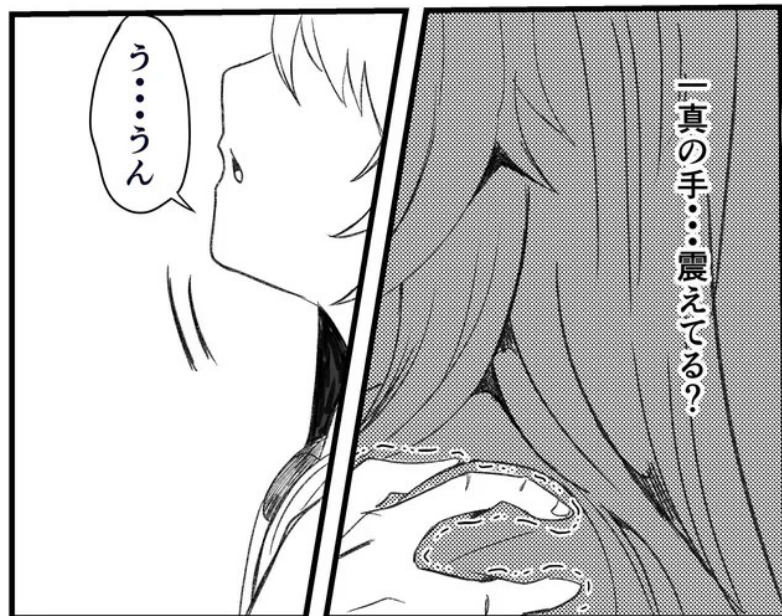
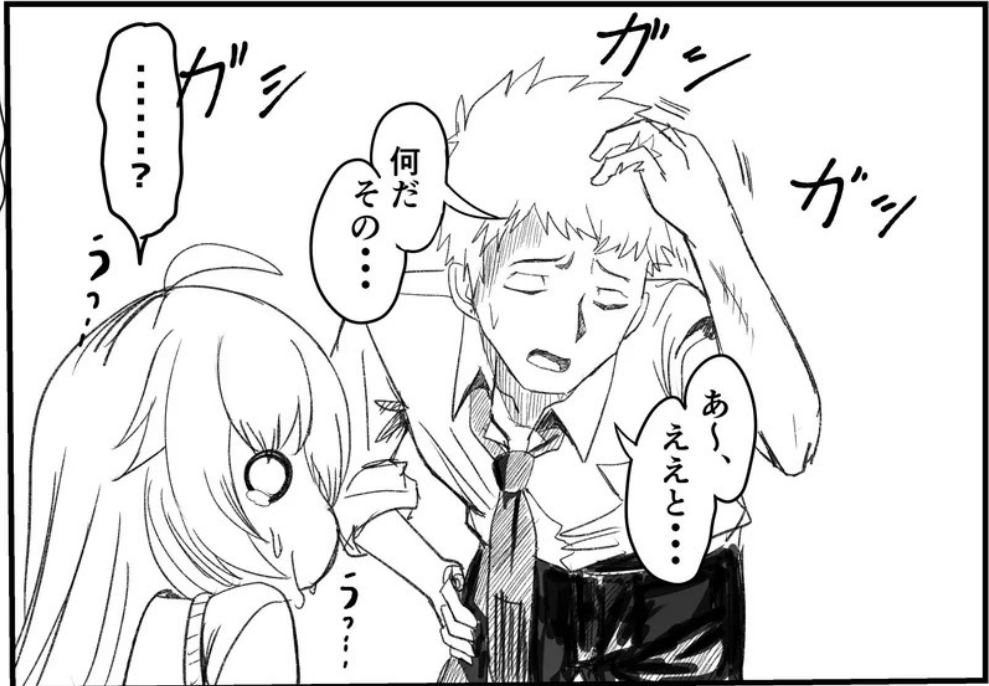
お前のこと好きだ!!

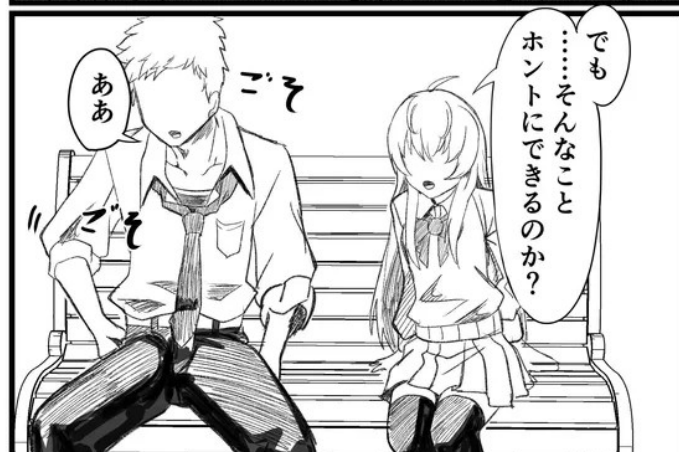
え...

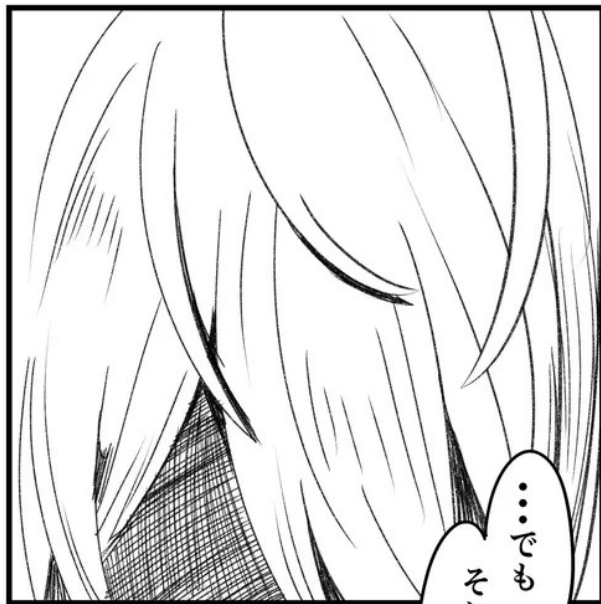
ええ?!



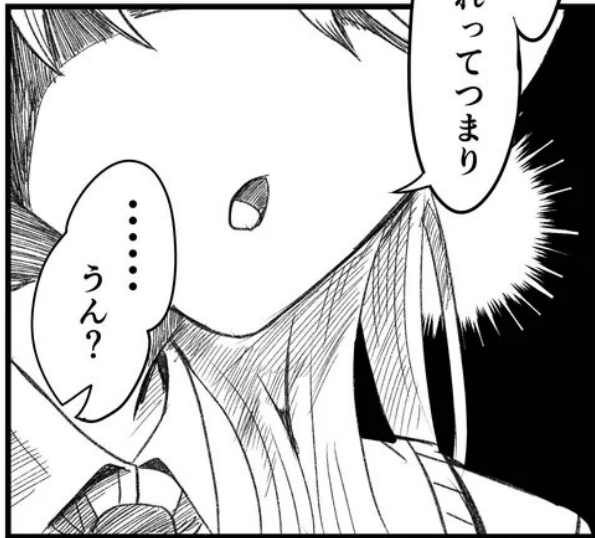








……でも
それってつまり



……
うん？



効能を確かめた訳では
ないけれど

ご、ごめん、雪夜！
俺、お前の意思無視して
酷いことを……

この必死な姿を見るに
嘘ではないのだろう



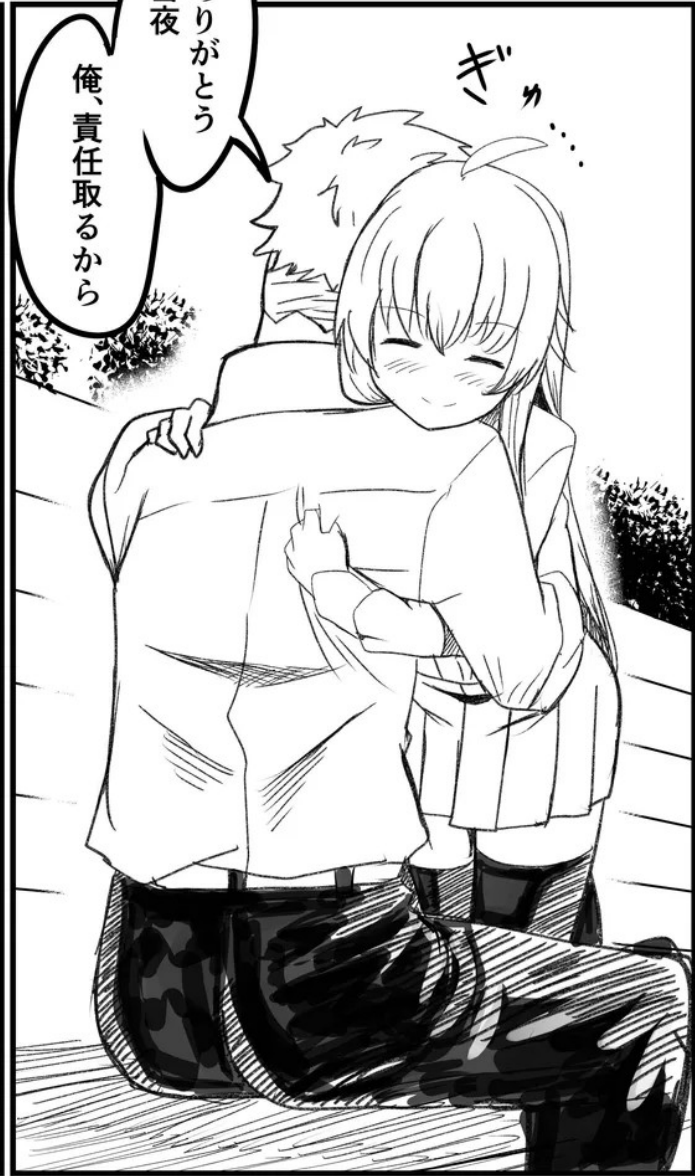
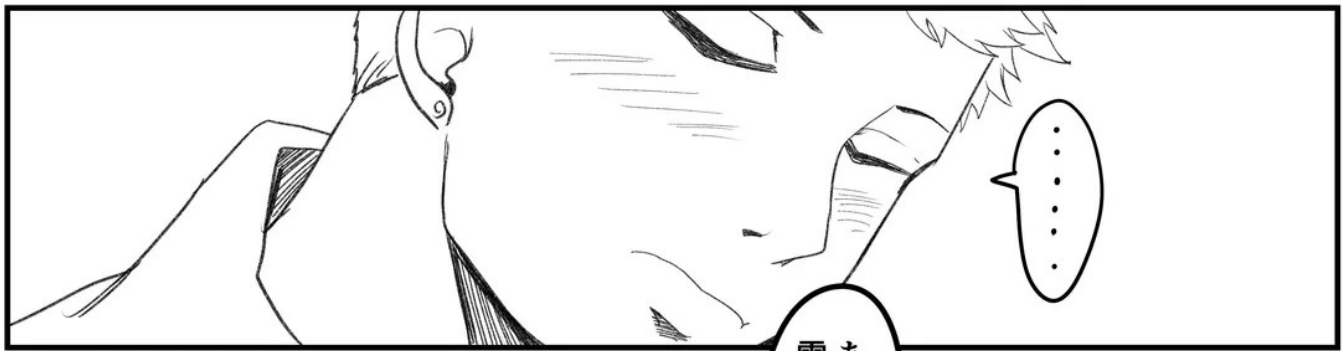
ぽ
かんっ
……へ？



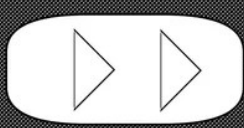
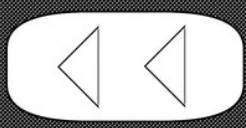
一真は
俺のことが好き
ってことでもいいのか？

スッ…







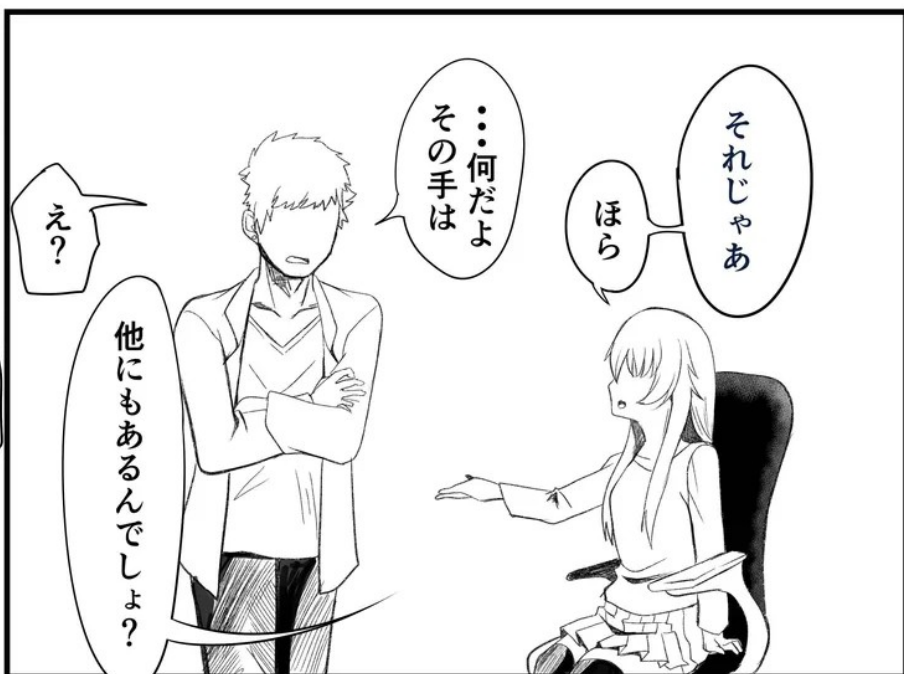




こいつ
分かり易いな...

いや、
ねーよ...

プッ



え？

他にもあるんでしょ？

...何だよ
その手は

ほら

それじゃあ



駅弁から

27回も撮って
やがった

締め上げたら
出てくる出てくる

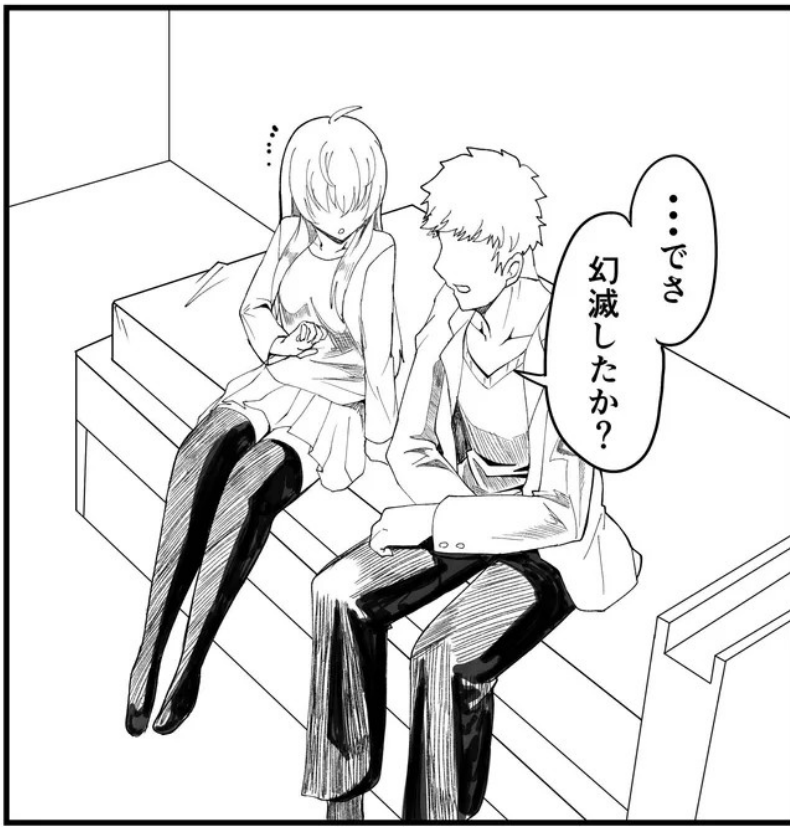
バック
後背位から

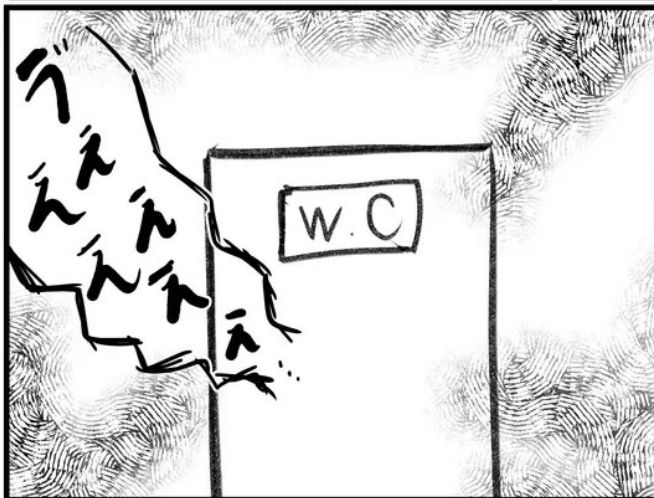
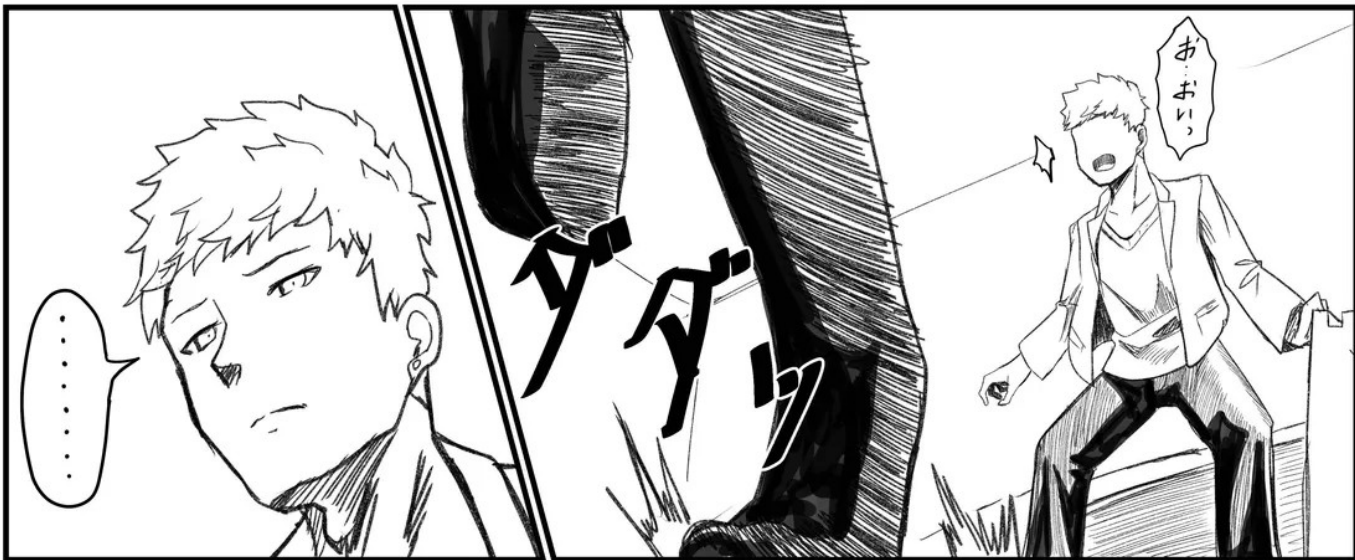
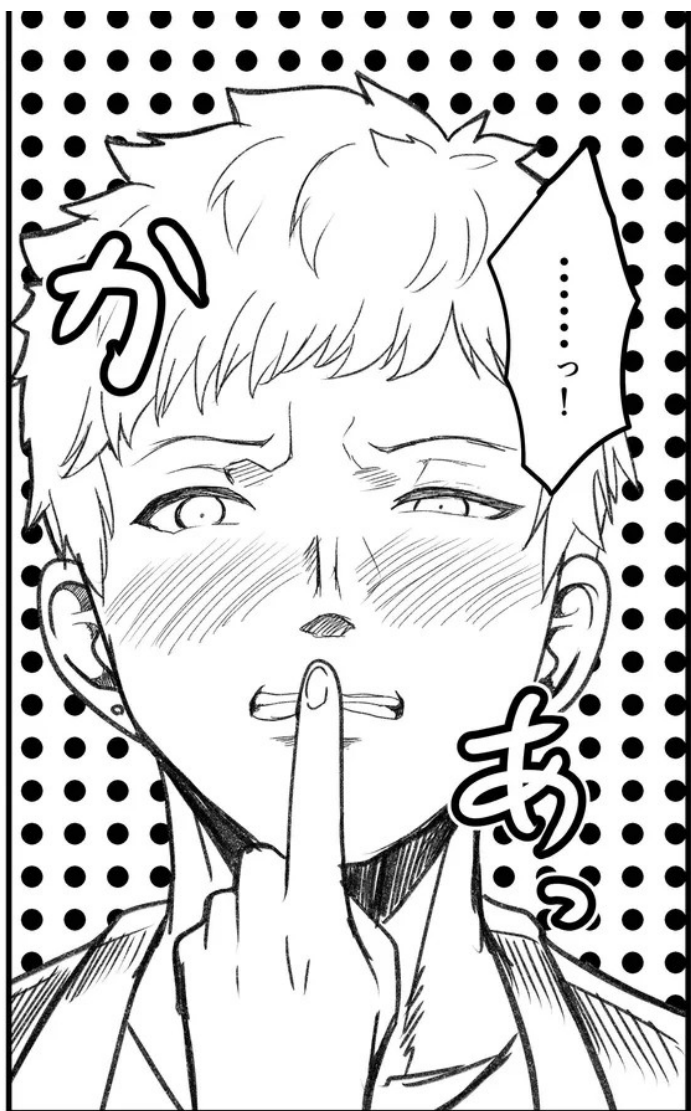


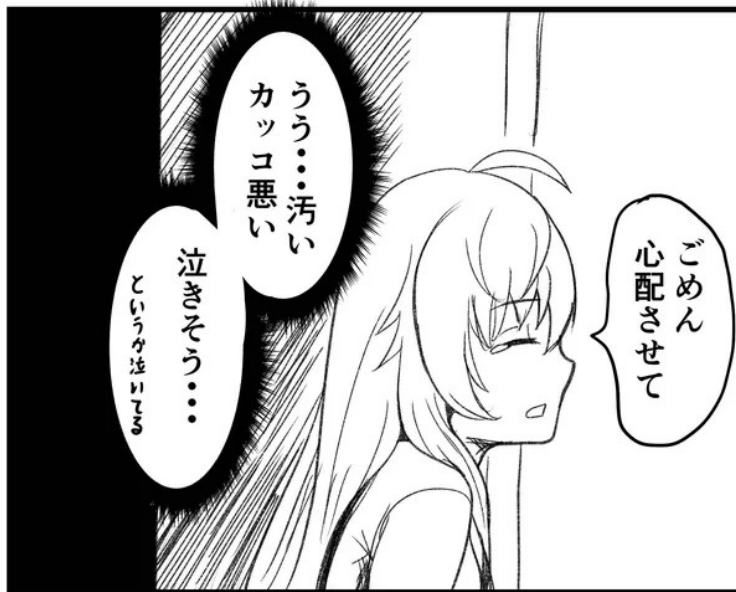
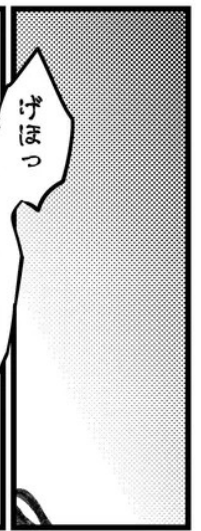
風呂場での
エッチから

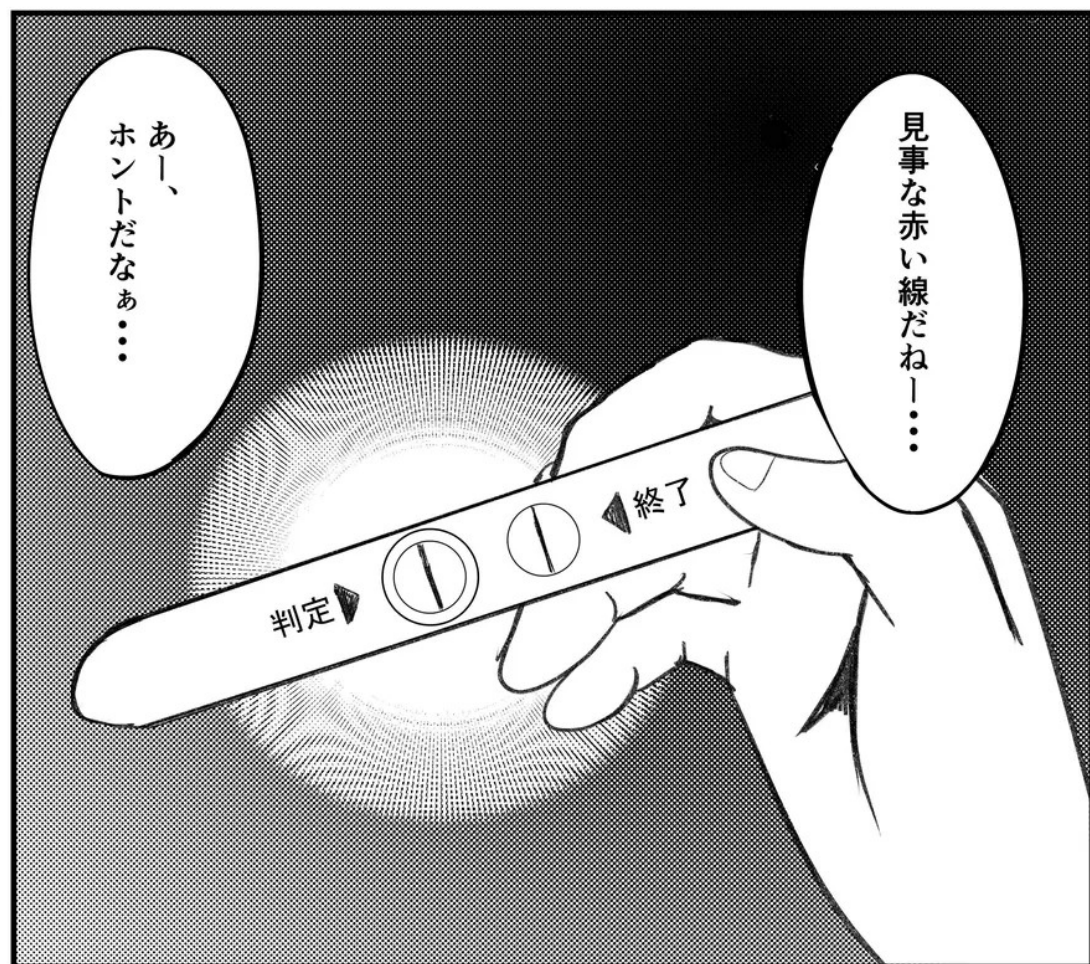
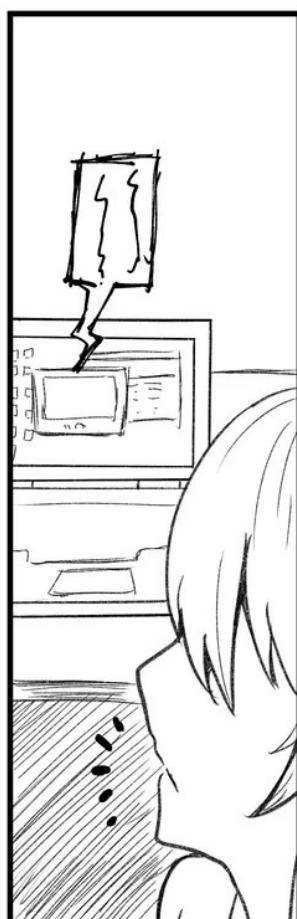
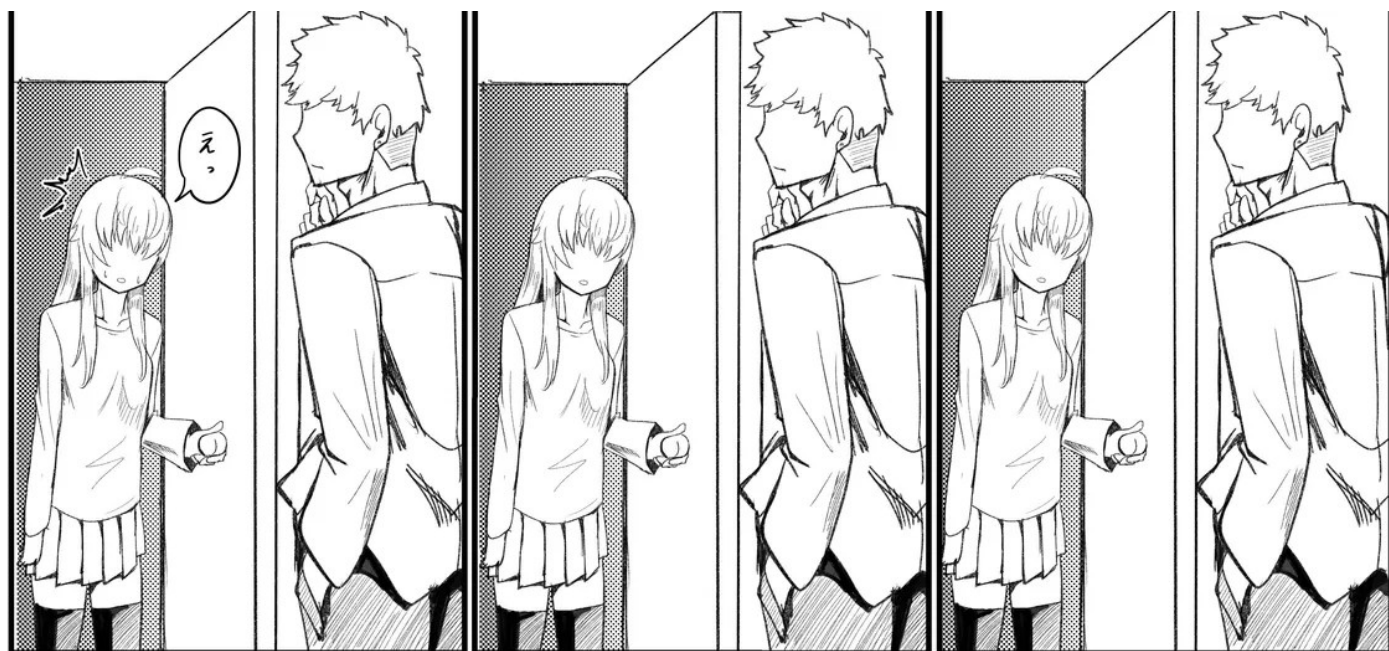
出てくる
出てくる...

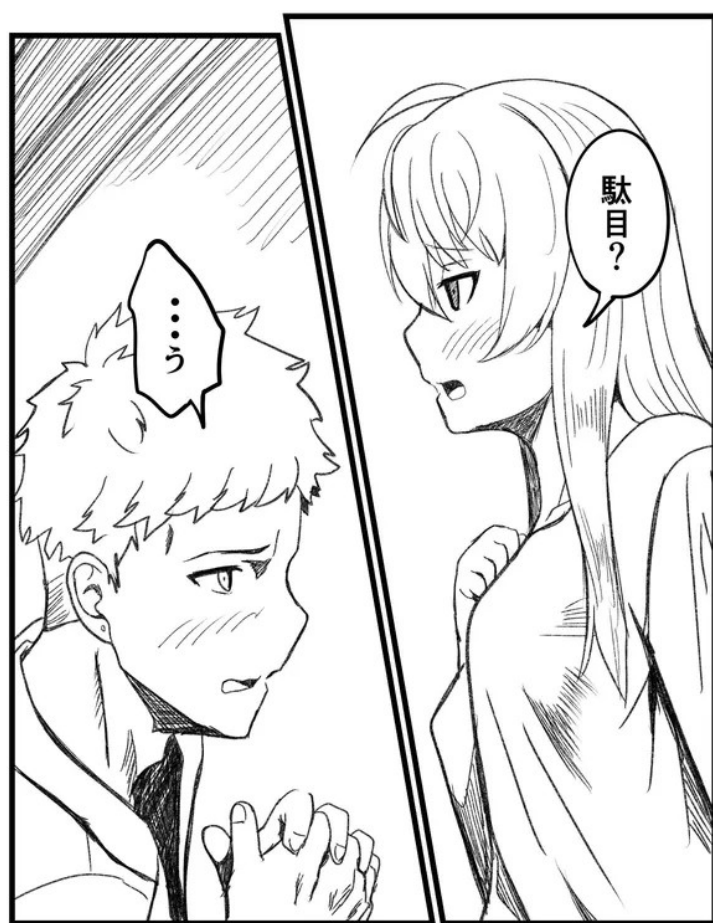


















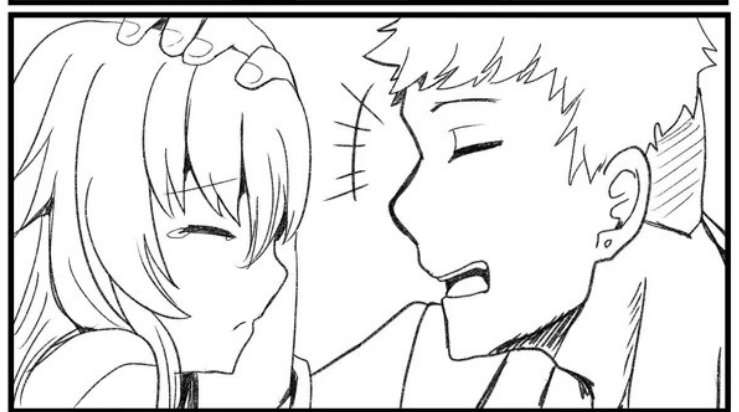
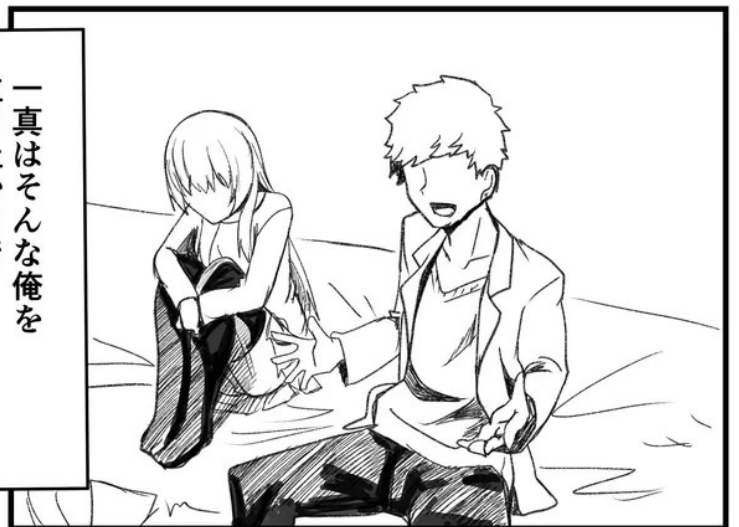
そこから先はひどいもんさ
涙止まらなくてね

泣いて泣いて
一生分ってくらい泣いて

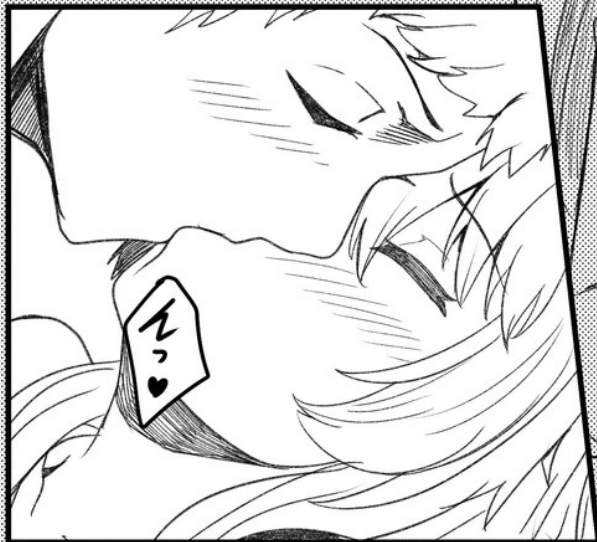
へえええええ

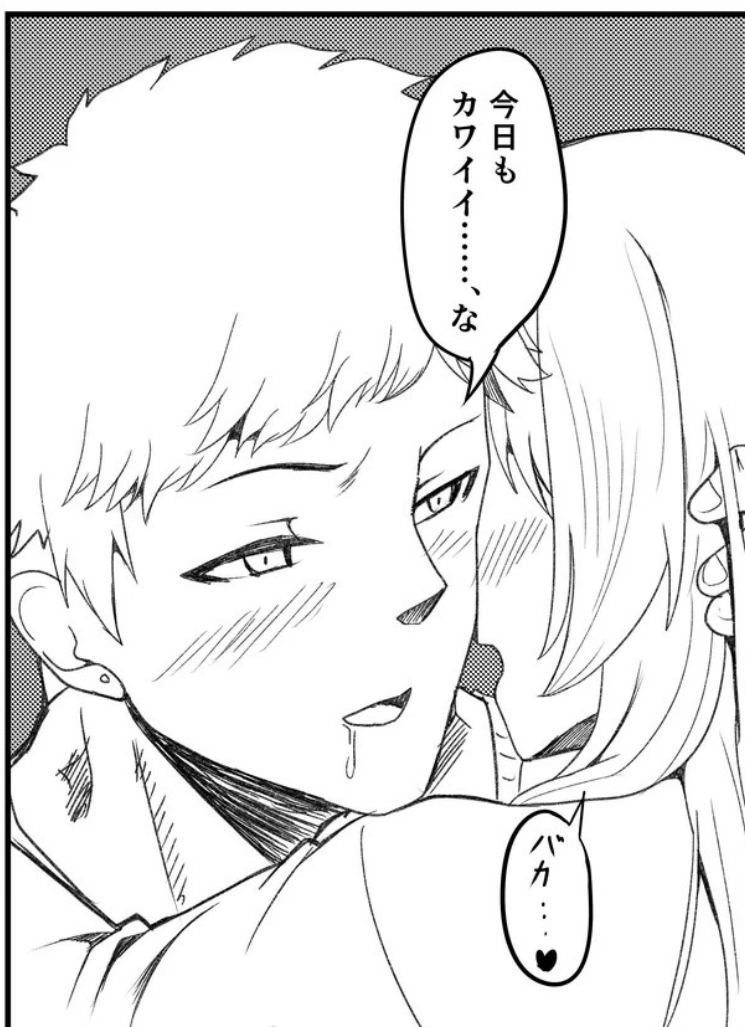


一真はそんな俺を
泣き止むまで
必死にあやしてくれてた

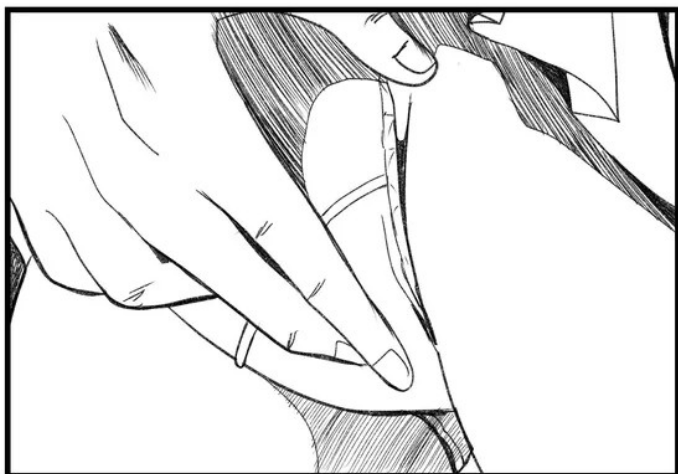
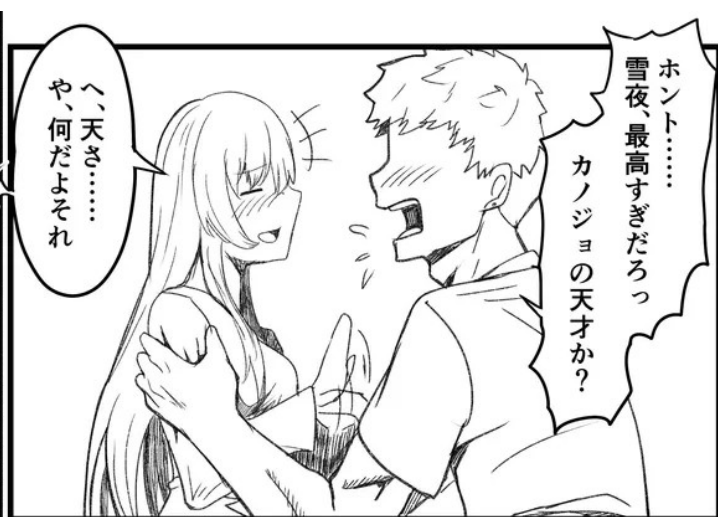


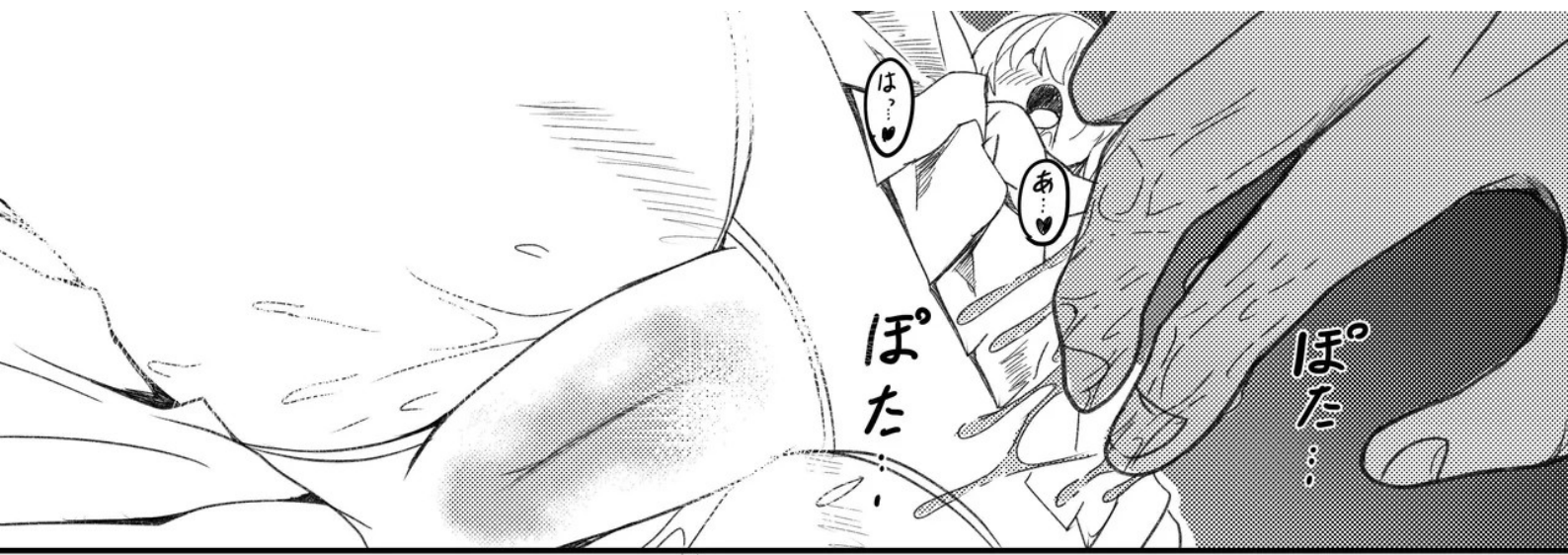
そして
その後――



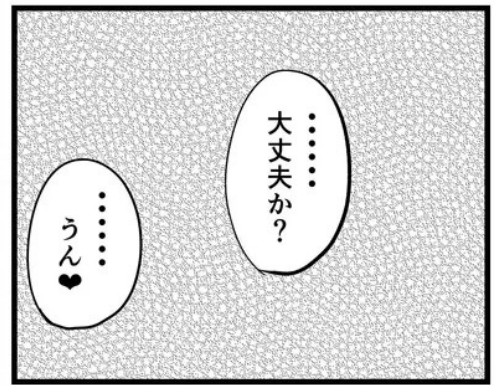




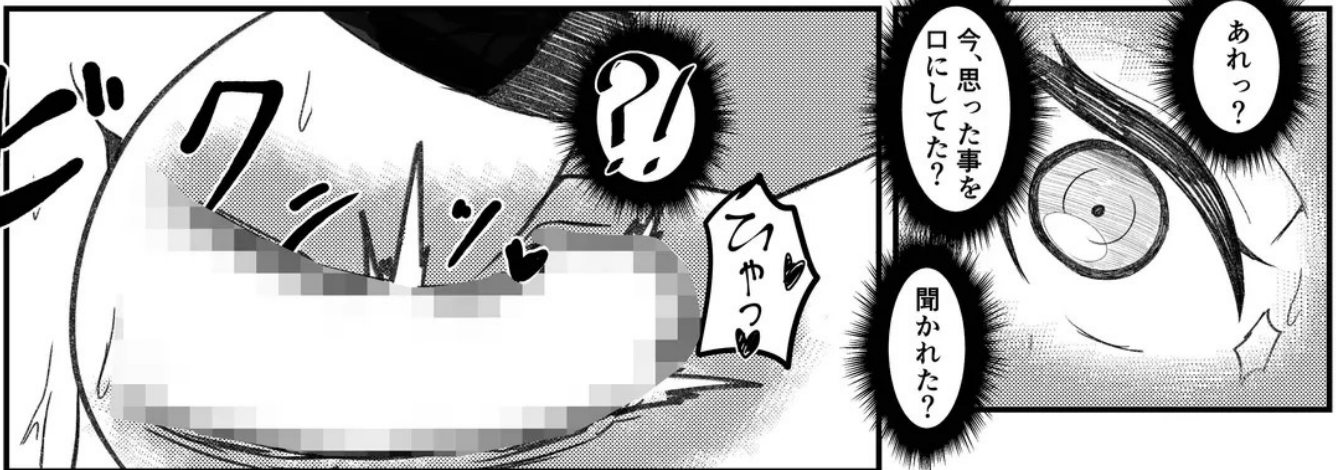
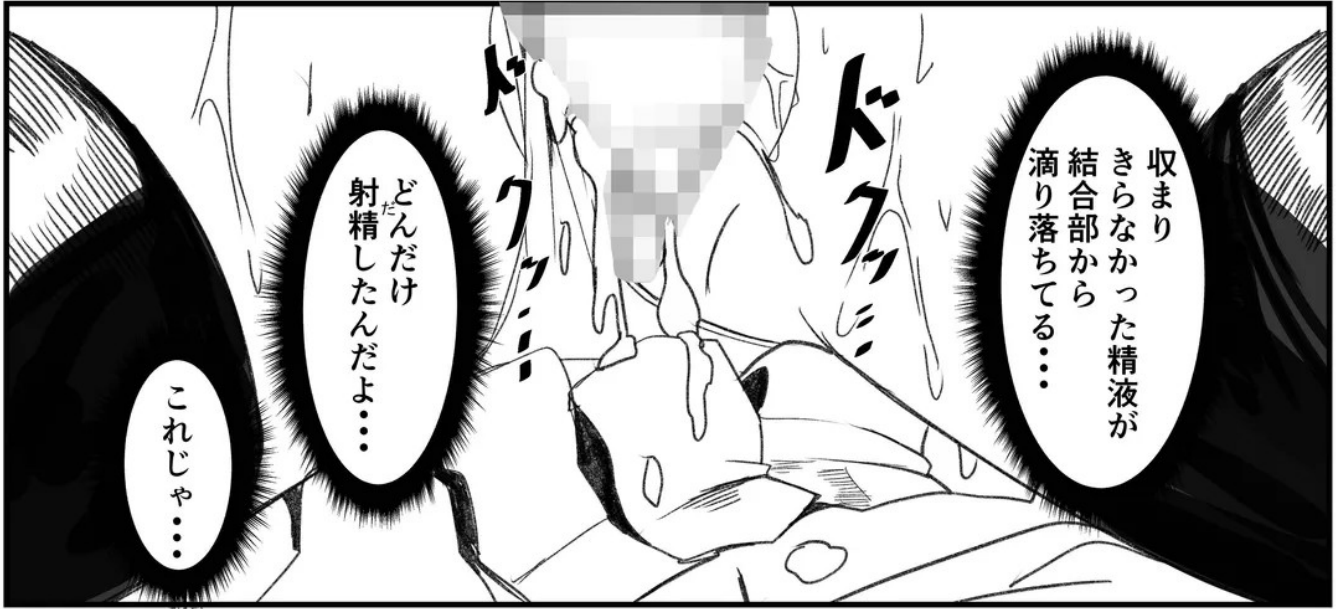






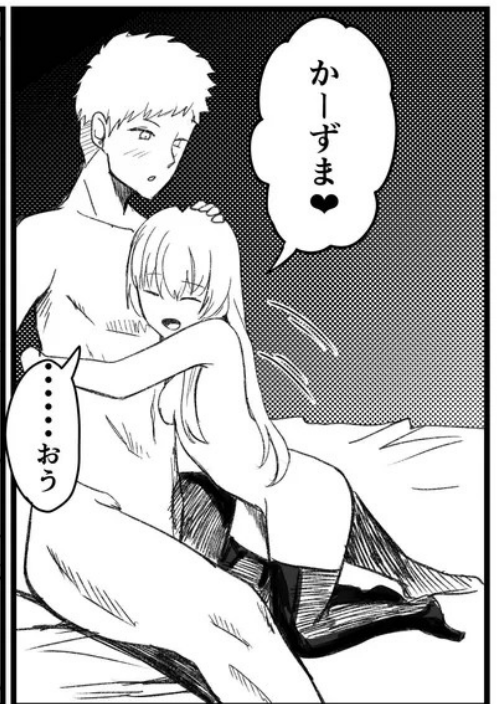








俺が気絶するまで
初めての合意の上での
無催眠セックスは
継続されたのだった。





そのまま『初めての夜』を
終えたのだった



6年後

はーい

今日の晩ご飯は
カレーで決定です！

ぐう……

な、何でおとーさん
もつと
粘ってくれないのーっ?!

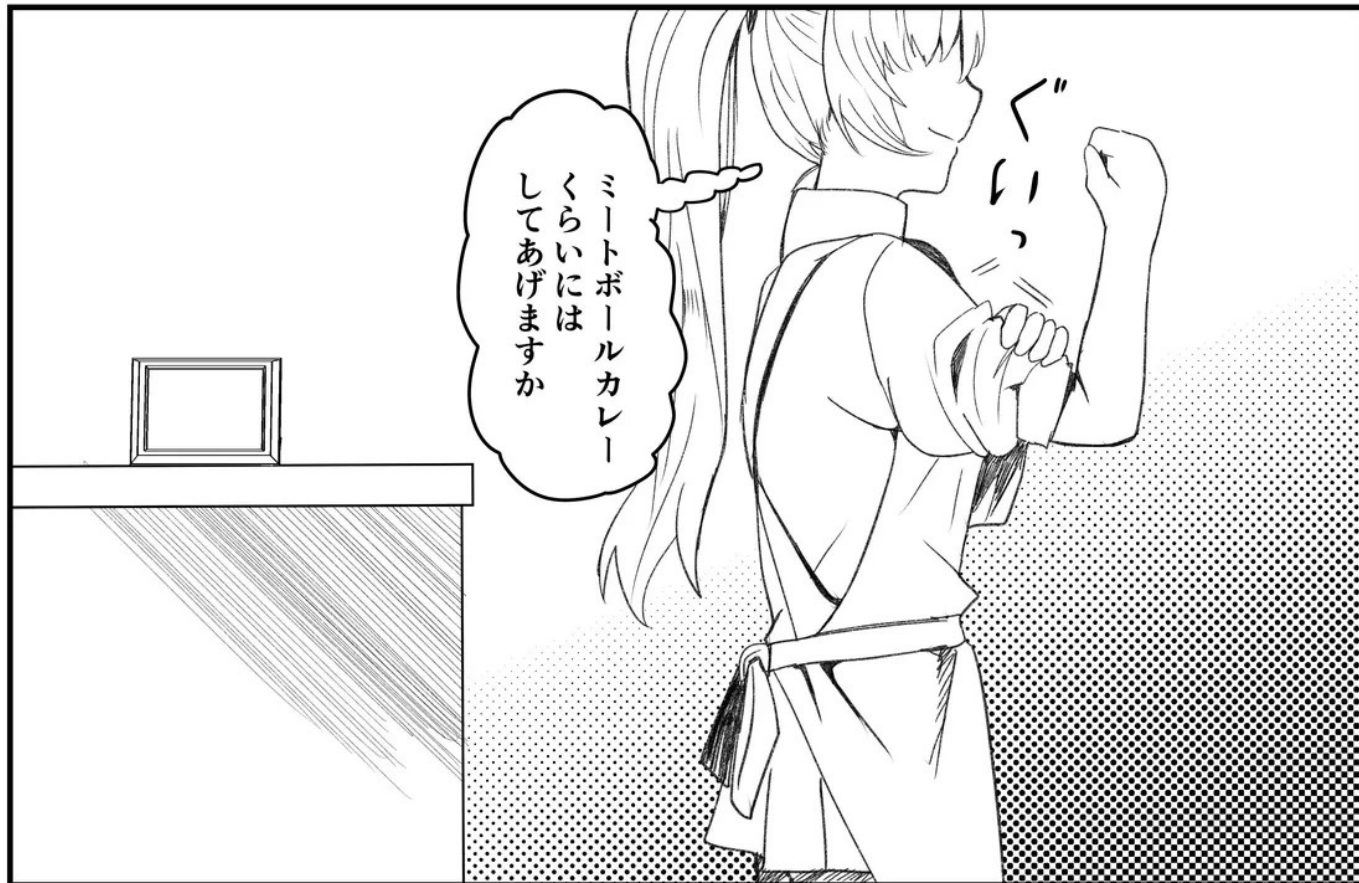
おとーさん！
おかーさんの尻に
敷かれ過ぎだよっ！

3日連続
カレーなのにつ
何で何で何でー！

ハンバーグ
たべたいナ







あれから6年、
籍を入れてからは3年
が経った

結婚3年目の
若奥様の雪夜は

就職したての夫・一真と
長男・雪那と共に

慌ただしくも
幸せな日々を過ごしている



- fin -

—奥様と旦那様の事後談—



奥様「いやー、とりあえず高校の時の
思い出まとめられてよかったね！！
—真！！」

旦那様「……何ていうか、うん。
見返せば見返す程にクズだよな、俺。
雪夜、催眠とかしてごめんな💧」



奥様「(私的にはラッキーと思ったん
だけどそこは黙っとこうかな?)
てか、何であんなアプリ使ったの？」

旦那様「性転換後の雪夜と付き合い
続けている内に、女の雪夜を好きに
なっちゃってさ。すぐ告白すりゃよ
かったんだけど、男の幼馴染に告白されても
キモがられるんじゃないかと思うと、勇気で
なくて。……ほんと馬鹿だった」



奥様「(あー、……そこは同じだった
んだ♪ ふふり♪) その頃にアプリ
入手して、ついついアレコレ使っち
ゃったって感じかな？」

旦那様「(……よくわかってんなあ)
そのとおりだよ。初めは好意確認す
るだけのつもりがああザマだよ💧」



奥様「(うん、一真ならそんなとこだ
よね) っていうか、その確認したの、
私が性転換してからどのくらいのこ
とで、私は、その時、何て答えたの？」

旦那様「1ヶ月目、(ピー)さんから
アプリ貰ったその日だよ。答は、首を
傾げて考え込んで終わりだった」



奥様「まー、1ヶ月目ならそんな感じ
かなあ。私自身、自分の気持ちに気づい
たの3ヶ月目だし。てか、普段の一真
なら、その後、ずっと同じ質問続けて、勝確し
てから告白しそうな気がするんだけど」

旦那様「それが、何故かさ、その質問
しても2回目からはエラーが出て。
そこでやめりゃよかったんだが。何
故か他の催眠は通ったもんだから、その……」



奥様「私が超可愛くてつい
魔が差してしまった、と」

旦那様「うん、ごめん💧」





奥様「んで、やってる内に、
どんどんタガが外れて？」



旦那様「ごめん💧」



奥様「一真ってそういう所あるよね。
それが勉強やスポーツに向いてる時
はいいんだけどドツボにハマると」

旦那様「うん、歯止めが効かなくなる
のは、俺の悪いクセだと思う。ホント
どうにも……💧」



奥様「まあ、最近は、だいぶ、直せて
きてるから自信持っていいよ。奥様
がしっかり保証するぜ！」

旦那様「……はは、ありがとう。うん、
だといいんだけどな。……胸張って
そういえるよう頑張るよ💧」



奥様「それはそうと、ずっと確認した
かったことがあるんだけど。この際、
訊いても良いのかな？」

旦那様「うん、良いけど。何？俺が、
オマエに、好きになるように洗脳し
たか、……とか？」





奥様「好きなのは、子供の頃からずっとだと思うよ？ 今、振り返ると、よくわかるっていうか」

旦那様「えっ？ お、男の時から？
そ、そうだったんだ？」



奥様「まーね。一真は、昔っから、フツメンだけど、頼りになったし、優しかったし、一緒にいて楽しかったし、私と違って文武両道だったし、うん、大好きだったよ。だからこそ、催眠程度のこと
で嫌いにならなかったんだと思う♡」

旦那様「……そっか。それなら、俺も少しは安心したよ……」



奥様「あは、もしかしてさ、一真が一番それ、気にしてたんじゃない？」

旦那様「まあ、な。(本当に良かった。)てか、質問したかったことって、この質問でよかったのか？」



奥様「ううん。他の女の子にもあのアプリ使ってたのかなあって、うん、疑問なんだけど」

旦那様「……まあ、普通疑うよな。
その時は、雪夜との催眠セックスに
ハマっててそんな余裕なかったよ。



学校では、マジ、賢者タイムって感じだった」



奥様「その割には、ずいぶんと楽しそ
うというか、仲が良かったような気
がするんだけど？ ㍻」

旦那様「元はといえば、あの子達から
俺と雪夜の関係訊かれて、ジョーク
で誤魔化したのがきっかけなんだけ
どな。そうしてる内に、ああなったっていうか。
正直にいうと、うん、もちろん可愛い子たちと
話せて、楽しかったのは、確かだけどさ。イヤ
ラシイ気持ちはあんまなかった」



奥様「……その割には、あの頃、私に
そっけなかった気がするんだけど。
私の記憶違いかな？」

旦那様「合ってるよ。実は、あの頃、
アプリ断ちにチャレンジしててさ。
でも、雪夜見てると、いつも可愛く
て、学校ですら我慢できなくなりそうでな」





奥様「童貞か！💩」

旦那様「うん。その通りさ。
だって、真正面から告白し
ないで好き勝手してたんだもんな。
自信なんてどこにもない。そんなものさ」



奥様「それでも、……催眠をやめよう
としてくれてたんだ？」

旦那様「ああ、ちょうどあの
日で催眠断ち7日目。初めはただた
だ、雪夜が欲しくて、欲望にかまけて
求めてたんだけど、その内、罪悪感がどんどん
強くなってきて、なあ。もっときちんとしない
とって思ってさ」



奥様「あは、魔性の女だね、私💎」

旦那様「うん、まあ、そのと
おりなんだけど……、うん。
だから、告白された時は焦った💧



今までの悪行を全て思い返して、告白を受け
いれたいけど、でも、それなら今までしてきた
ことを隠してる訳にはいかないし、でも、正直
に伝えたら、多分、嫌われると思ってたし」



奥様「それでも正直に告白したんだからエライよ。ふふっ、私が、一真にべた惚れしていてよかったね？」

旦那様「うん……、ありがとう。後さ、さっきもいったけど、その好意も催眠の影響じゃないかとも考えたりしてさ💧 ついイロイロ考えて、あんな反応しちゃった。辛い思いをさせて、ごめんな」



奥様「さっきもいったけど、私の恋は昔っからだから安心していいよ？」

うん、イロイロ訊いたけど、まー、大体当時の予想してた通りだったかな」



旦那様「そ……、そう、なのか？」



奥様「うん。だって、当時でも10年以上の付き合いだよ？ 一真のことは、よくわかってるつもり。幼馴染舐めんなってことよ！（かんらかんら）」

旦那様「……ありがとう」



奥様「ふふ、どういたしまして。てか、そろそろ雪那の弟ほしいね？」

旦那様「……これまた唐突な話題転換だな。うん、仕事も落ち着いてきたし、……作っても、いい頃かもな」



奥様「うん、しっかりしっぽり愛し合おうね」

旦那様「ん……、そうだな」



（こうして、私と一真の新しい家族計画が始まったのでした。え、（ピー）さんは誰かって？ 本編前後のエロシーンも見せて？ IF シーンとかも見たい？

……うん、それらを流せるかどうかは、神様な皆様の応援次第、……かなあ。それじゃ、運が良ければ、また会えると思うので、その時までまたねっ！）



奥様：実は、エロ漫画大好き。それも催眠とかドギツイ系統大好き（耐性持ち）で、旦那様にもよく貸してた。



旦那様：一見、チャウい外見と違い、奥様催眠する前は童貞。性体験の人数は、未だに1人（奥様）だけ。